

TIJ 日本語教育研究会通信

No.51 2013.5.29 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



新緑の美しい季節となりました。バラの花も今、真っ盛りを迎えています。TIJ でも新入生を迎えて一か月半過ぎました。今年は、中国からの学生に加え、ベトナム、スリランカ、ネパール、フィリピンからも学生が入り、国際色豊かになりました。

学生の多国籍化に伴い、特に読み書きの指導について、今までと違った対応が必要となっています。TIJで、非漢字圏学習者の読み書き教材の作成を試みましたので、本号でご報告をさせていただきます。

今年も2月11日建国記念日にTIJ文化交流祭りを行いました。多くのお客様に学生の発表を聞いていただき、また、交流会でもお話を聞かせていただきまして、ありがとうございました。参加された方のご感想と、TIJの今回の文化交流祭りの指導者からのご報告を掲載いたします。

また、3月4日にはスピーチ大会を開きました。その時の優秀者のスピーチと、審査員の感想を掲載いたします。

5月10日から16日までベトナムとミャンマーに出張に行きましたので、その報告も掲載させていただきます。

【本号の内容】

1. 非漢字圏学習者の読み書き教材の作成
2. TIJ文化交流祭りの感想
3. TIJ文化交流祭りでの劇指導について
4. TIJスピーチ大会優秀者スピーチ
5. TIJスピーチ大会の感想
6. ベトナム・ミャンマー出張報告

非漢字圏学習者の読み書き教材の作成

次年度に従来の中国からの就学生に加えて、ベトナム、その他のアジア諸国からの学生募集も強化するという学校の方針が決定されたのを受けて、初級の非漢字圏学習者のための漢字教材を新たに作成することが話し合われました。

この中で、漢字教材としては、漢字に全く触れたことのなかった学習者のための書き教材に加えて、日常の様々な場面で出会うであろう漢字混じりの文書に視覚的に慣れ、そこで求められる行動がとれるように、ということを目指にすえた教材が必要だろうと考えました。

日本へ来た直後、学習者は日本語の学習がまだこれからであるのにもかかわらず、様々な手続の必要に迫られます。現実的には本当に日本語が何もできない状態の場合、役所、銀行へは、誰か日本語のできる人に同行してもらうことになるのですが、以下の場面を想定してみました。

想定される場面	言語活動
銀行、郵便局	口座の開設、キャッシュカードの申込書を書く
病院、医療機関	問診票に書き込む お薬アンケートに書き込む、薬袋の指示を読む
家庭	ごみの分別のしかたを理解し、分別する 停電、断水のお知らせを理解する* 宅急便の不在通知を理解し、配達依頼をする* 請求書、領収書を読む*
職場	履歴書を書く
レストラン	メニューを読む*
人間関係	年賀状を書く お礼状、お礼のメールを書く 暑中見舞いを書く*

*については、まだ教材化していません。

どのようにこつこつ勉強をしても非漢字圏の学習者の初級 1、2 のレベルではこのような文書をすべて読み下すことは不可能です。自力で読んで理解することは困難でも、それに拒否反応を起こすことなく、その中から少しでも自分が知っている、勉強したことを見つけ出して、理解の手がかりとし、対処できるようなタスクもつけました。このタスクの中では、実際に先生やクラスメートに年賀状を書く、また、ゴミの分別クイズで、絵で示されたゴミがどの種類にあたるかを考える、というような具体的なタスクは学習者にも楽しめたようです。また、様々な生活の場面で目にする、表示、掲示、看板などの文字も取り上げたほうが良いのでは、との指摘がありました。これは今後の課題です。

「年賀状を書こう」については中国人 6 人、フィリピン、韓国が各 1 名混じったクラスで初級 1 の終了間際に検証を行いました。充分学習を楽しみ、実際に年賀状を書くこともできました。その他のタスクについては、中国人のみの初級 2 のクラスで使用してみて検証を行いました。

この 4 月には現実にフィリピン 1 名、ベトナム 7 名、ネパール 2 名、スリランカ 1 名の多彩な国籍の学習者が入学し、9 名の中国からの学生とともに就学生として日本語の学習を始めました。彼らにこの教材がいつ使用されるのか、今のところ未定ですが、より彼らの実情に即した教材になるよう、検証を重ねていくための、これはたたき台であると考えています。大きく、果てしのない漢字の海に果敢に漕ぎ出していく学生たちの船出を少しでもスムーズなものにしてあげられる教材になることを願っています。

渡部尚子 (TIJ)

TIJ文化交流祭りの感想

このたびは、文化交流祭りに参加させていただき誠にありがとうございました。自身の日々とはまったく異なる環境の中での異国の学生さんたちとの触れ合いは私にとっても非常に刺激となりました。

教室に入るとすぐに、学生さんたちによる自国文化を説明するポスターなどの展示物が目に入りました。しばらく眺めていると、一人の学生さんがとりについて説明をしてくれました。日本語学習中の学生さんにとっては、初対面の私に説明をすることには少しストレスがあったかもしれませんが、灯籠を空へ飛ばす行事の体験談(元宵節?)を楽しそうに話してくださったことは印象的でした。大学生の頃の留学生との触れ合いを思い出し、懐かしさを感じました。

私にとって特に印象的であったのは、学生さん個人による、自国の政治的・経済的な問題点や文化をテーマに取り上げた自由発表でした。自国の、問題と思われる部分を真摯に受け止め日本語で説明をする姿には意識の高さに感銘を受けました。一人あたりの持ち時間が短かったことは、少し残念でした。個人的には、学生さんの考える結論まで聞きたいと思いました。そのほかの発表も興味深いものが多く、翡翠をテーマに取り上げた発表や、パソコンソフトを用いて作成された宣伝ポスターの発表などが印象的でした。上級クラスの学生さんたちによる劇の発表も面白かったです。新人としてアルバイトに取り組む中国人留学生をテーマに取り上げた劇は、ユーモアを組み入れながらも、現実に起こりうる異文化同士の摩擦を経たからの歩み寄りが描写されていました。観終わったあとに、取り扱われたテーマは実際に学生さんが経験されたことなのだろうと思いました。

発表後の座談会では、短い時間でしたが学生さんと直接お話ができてとても楽しい時間でした。来日から一年足らずで対等に会話ができる会話能力には改めて感心しました。座談会では特にテーマを決めていたわけではありませんが、今福様が話してくださった

日本企業の経営に関するお話など、学生さんたちのみならず私にとっても非常に勉強になりました。

最後に、職場での母の姿を見られたこと、受け持つ学生さんたちと交流を取れたことは個人的に一番思い出に残りました。

中本琢朗



TIJ文化交流祭りの劇指導について

－見守ること耐えること－

恒例となった文化交流祭りには、今年も多くのお客様が足を運んでくださり、発表に臨んだ学生たちに大きな自信を与えてくださいました。プレゼンテーション、ポスター発表、伝統芸の実技、劇が当日の演目でしたが、今回はその中の劇の指導について書いてみたいと思います。

演目の選定は学生の主体性に任せます。プレゼン発表を募ったところ、5人がさっと手を挙げ、内容もあつという間に決まりました。意欲のある学生はやりたいことも明確です。5人とも「1人でできますからご心配なく」と涼しい顔で言い、早速準備に取り掛かっていきました。クラスは17人、残りは12人。じゃ、あとは劇でも…。嫌な予感がします。私は一昨年の文化交流祭りで劇指導に携わり、メンバーに恵まれたこともあって好評を得たのですが、その流れなのか、今回も気がついた時には劇指導担当となっていました。

司会や機材・小道具担当も決めて、最終的に劇担当となったのは7人。日本語も口も達者な女の子たちで結束力とノリは抜群です。劇のストーリーはすぐに決まりました。

キャビンアテンダントとして働いている中国人女性と、乗客の日本人男性が出会い、一目惚れ。家族の反対を乗り越えて結婚するハッピーエンド。

自分たちのアイディアに酔って演出もどんどんエスカレートしていきます。劇の出番は一番最後。「中国文化紹介」「中国現代事情」「グラフィックデザイン作品紹介」といった発表の“トリ”を務める劇がこんな内容では…

しかし、学生主体で進めている内容を教師の一声で覆すことはできません。そこで、練習をしていく中で様々な質問を投げかけて、彼女たちの心に楔を打ち込んでいくことにしました。もちろん、ひたすら穏やかに。

「この設定は留学生のあなたがたに身近なものなのか」

「この劇をすることであなたがたの主張したいことは何か」

「これをお客様に見ていただくことにどんな意義があるのか」

次に、クラス内の第1回リハーサルを早く設定しました。準備開始から2週間です。通常はこの段階でリハーサルなどしないものですが、今回はクラスの統一を計るという名目で行いました。5人のプレゼン発表は真面目で意欲的な内容ばかりです。中には現代中国の政治批判とともられかねないところまで踏み込んだものもあり、教師の指導にも緊張が伴いました。

リハーサル当日、プレゼンが進むにつれて劇担当学生の顔色が変わっていくのがわかりました。明らかに動揺して、混乱しています。そして、“トリ”の自分たちの劇を終えて、解散後、3人の学生が「内容を変えたい」とやってきました。「よし、かかった！」楔の効果、満点です。

それからは、残り3週間の準備期間で、脚本・演技を分担して作り直し、多少の仲間割れはあったものの、劇完成に向けて皆の気持ちをひとつにしていきました。作り直した劇は、等身大の自分たちをわかってもらいたいという思いに溢れていました。

この発表で学生は多くのものを得たと思います。

能力があるにもかかわらず、その性格から表に立つことをずっと避けてきた学生が、お客様の前で自分たち留学生の心境を素直に吐露したこと。それまでクラス内でどことなく燻っていた学生が、受験の成功をきっかけにリーダーとして動き、見事に役割を果たしたこと。お調子者で練習もさぼりがちだった学生が、途中からはアルバイト先の店長さんに演技の手ほどきを受け、当日は足も運んでもらったこと。集団の中での自分の責任を自覚し、自主的に動く。今後の社会生活にどんなに役に立つことでしょう。

そして私も、今回の指導で得た教訓があります。見守ることと耐えることです。以前なら、くだらない内容の劇に不満を表明し、変えることを強要していたことでしょう。しかし、年を経て、相手が自分で気づき自分で変えない限りは何もうまくいかないという当たり前のことを学びました。ですから今回は、学生のやることを見守ろう、否定的なことは言うまいと決めたのです。もちろん、学生たちの頑張りで劇を無事に終えられたことは確かですが、人を動かすにはどうすればいいか、そのことを真剣に考え実践できたことは大きな収穫でした。

北内直子 (TIJ)

TIJスピーチ大会の感想

今回4年ぶりにTIJの学生達のスピーチを聞くことができました。初めて審査員として参加させていただいたのですが、どの学生のスピーチも練習の頑張りが手に取るように分かり、甲乙つけがたいものでした。態度、発音、内容などを総合してその時いいと思った人に点を入れたわけですが、「あの学生にも賞をあげたかったなあ」などと今でも考えてしまいます。

中級のスピーチは、残念ながら1人欠席ということで、3名の発表でしたが、「えっ、中級ってこんなにしっかりとしたスピーチができたっけ？」と初めから驚かされました。クラスで選抜された学生と聞き、納得しましたが、それでも上級の学生達に引けを取らない力を持っているのには驚きました。他の審査員の方のコメントにもあったように、1位になった学生はニクいことに「お米の美しさ」といった言葉を使い、米好きの日本人の心（私もそう！）をしっかりとつかんでいました。

上級のスピーチはどれも留学生活を通しての学生自身の成長が感じられるものでした。異国日本で壁にぶつかってくじけそうになりながらも乗り越えて頑張る姿、助けてくれた人に対する感謝の気持ち、交流の大切さや人の良い面を見る大切さ、環境保護の大切さ等々……。実は日本語教師生活が長くなり、数々のスピーチを聞いていると、どこかで聞いたことがあるような内容に出くわすことは多々あります。でも、似ている内容なのに新鮮に聞こえ、人の心を打つのは、学生達が自身の実際の体験を自分の言葉で一生懸命伝えようとしてくれているからだだと思います。ラストを飾った学生のスピーチはかなり長めのスピーチでしたが、ただ暗記したというのではなく、言葉が口からよどみなく流れ出てきて「これが言いたいのだ！」という気持ちが溢れ出ていました。

上級のスピーチで1位になった学生は、「もしやスピーチコンテストアラシでは？」と思ってしまうぐらい堂々としていて、スピーチのコツというものが分かっているのに感心しました。他の学生達に「視線が大事」とアドバイスできるほど自信も持っていて、大勢の人の前で話すとなるとすぐ緊張してしまう私は羨ましい限りでした。彼は前回も優勝だったそうです。さすがです。

今回のスピーチ大会は中上級合わせて9名の出場でしたが、できればもう4、5人は聞いていたいと思うぐらい時間が早く過ぎてしまいました。一人一人のスピーチ時間もきつと適度な長さだったのだと思いますが、あともう一エピソード分ぐらい長くても良かったように感じました。（指導側でなく、審査側の立場だからそう感じたのかもしれませんが。）

出場した学生達はこの発表が自信となり、また更に頑張れることでしょう。そして、今回は聞く側に回った学生の中にも「次回はぜひ自分が！」と刺激された人が多かったに違いありません。また次が楽しみになりました。

佐々木真佐子

TIJスピーチ大会優秀者スピーチ

上級クラス第1位

交流

付漢騰

こんにちは。みなさん、異国の生活の中で、今までずっと悩んでいることがありますか。わたしは同じ質問をたくさん留学生達にしたことがあります。答えの中、一番多いのは「友達ができなくて、寂しいです」ということがわかりました。

日本に来て一年半になって、生活にも慣れ、いろいろ新しい経験もしました。日本人の知り合いもできて、親しく付き合っているつもりでも、自分の気持ちがきちんと相手に伝

わらないということがときどきあります。

私はこんな経験があります。去年 11 月、大学に合格したので、入学金と学費を払わなければいけませんでした。だから、100 万円程のお金をすぐ出せないわたしは、メールで日本人の親しい友達に借金の御願いを送信しました。残念ながら、返信が来て断わられてしまいました。親しい友達として、なんで助けてくれないの？怒ったわたしはそれからその友達に連絡しませんでした。

しばらくしてある日、「大学の手続き、順調に進んでいるか。時間があれば、一緒に御飯に行こう」というメールが届きました。私は友達と会って、先日のことをまず詰問しました。けれども、彼は「大事な金の問題を簡単にメールですませていいの？失礼じゃないの？」と言いました。その答えを聞いて、びっくりしました。「えー、大事な事だから、先にメールしたんだよ。礼儀正しくないですか」と私は言いました。私は、友達の事を意外に思っていましたし、友達も私のことを意外に思っていました。やはり、中国と日本の文化や常識は違います。その日、友達といろいろな意見を交換して、誤解が全部消えました。どんな意見の相違も、胸襟を開いて話し合えれば、きっと分かり合えるはずです。

ですから、明るく周りの人に話しかけて、時間をかけて付き合えば、友達が必ずできると思います。お互いに面と向かっての交流が重要だというのは、個人だけではなく、国と国の関係も同じです。文化交流、経済交流、政治交流など、国の発展にとって大切なことです。特に、両国間で問題が起こったら、交流はいつもよりもっと重要になります。

留学生としての私たち、周りの人々と交流して、お互いに理解して、良い人間関係を作って行きたいと思います。それが、最終的には中国と日本が理解していけるようになるのではないのでしょうか。

以上です。ありがとうございました。

上級クラス第 2 位

いい面を見つけよう

李慧善

世界には万物があり、万物にはいい面と悪い面、両面があります。私たちが生活しているこの自然環境にも、また、社会にも、プラスの面とマイナスの面があると思います。

日本に来たばかりの時、日本中は食中毒の恐怖に震えていました。生の牛肉を食べて、食中毒になり、5 人の人が命を失ってしまいました。その時、私は食品の中に入っていた細菌が私たちの幸せを奪ったと思い、この細菌を憎む気持ちでいっぱいになりました。しかし、ある日、初めて納豆と出会い、ご飯と一緒に混ぜて食べた時の、あのおいしさと言ったら最高でした。調べてみると、納豆は日本の国民栄養食品で、大豆に納豆菌と言う細菌を培養し、発酵させたものだとは分かってびっくりしました。ずっと細菌を憎んでいましたが、その細菌が体を健康にする万能薬だったのです。

ひとと細菌と同じだと思います。だれでも加害者になる時もあるし、反対に恩人になる時もあります。また、私たちは一人の人を好きになることもあるし、嫌いになることもあります。日本に来てから、たくさんのいろいろな人と出会い、また、その途中でたくさんの喜怒哀楽がありました。大変であきらめようとしたこともありましたし、友達の本心が

分からなくて誤解したことも、周りからの応援でやる気が出たことも何回もありました。このような、2年間のいいことも悪いことも、映画の画面のように、頭の中を通り過ぎて行きます。

物を見る時は、いい面と悪い面、両方とも見るべきですが、私は悪い面よりもいい面を先に見つけたいです。そうすれば、前向きな考えを持つことができ、悪い面は解消されていくでしょう。特に、人を見る時はこれが大事だと思います。みんながそうすれば、生活をもっと深く味わえるのではないかと思います。



中級クラス第1位

心をおだやかにするお米

邵治為

お米を重んじるのは日本人の誇りというべきことです。銀座の高級料亭では一人前 3000 円のご飯を売っているそうです。これは世界で一番高いお米を栽培している日本人のすばらしいところです。それに、穏やかな日本人を造る原因の一つです。

「お米は楽しく苦しく、悩みが多い人生みたいなもの」という言葉は日本の最高級米「こしひかり」の産地南魚沼市の農家の方が言ったそうです。確かに、一粒一粒の米を大切にするように、私も子供の頃から教育されています。しかし、ある調査によると、かつて一人で毎年 120 キログラムを消費していた日本人は、豊かになるのにもなって、お米を食べる量も減ってしまったそうです。

私たちは持っているものが多くなった時、逆に、もっとも純粋なものを感じにくくなってしまふのかもしれませんが、しかし、広告業界で働いている金子健一さんはそう思わないようです。彼はご飯が好きすぎて、多くのご飯についての本を作りました。約 120 種類のご飯料理の作り方を読者に紹介し、人々の心にもう一度お米の美しさを呼び覚ますという活動をしています。その 120 種類の作り方の中には、私が一番好きな「スペシャル卵かけご飯」というご飯料理が出てきます。あたためたご飯の上に、生卵としょうゆだけをかけると最高の味が出てくるのです。

この金子さんのように、お米を愛している人は、実は、単純な人なんです。彼らは、ただ、そういうお米のような、飾らない、飾られないという感じを愛しています。

このスピード時代の私たちは、焦っていららするかもしれませんが、でも、心の中におだやかなものが必ず戻ってきます。それは、お米がつれてくるのだと思います。

ベトナムミャンマー出張報告

5月10日から16日まで、学生部の阿字地さんと二人で、ベトナムとミャンマーに出張しました。私はベトナム、ミャンマーとも初めてで、期待と不安の入り混じった気持ちでハノイのNoiBai空港に降り立ちました。

まず空港からホテルまで乗ったタクシーは、高速道路走行中、前を走る車に対して「俺様の車が走るから右に寄れ」と言わんばかりに、ほとんどずっとクラクションを鳴らしっぱなし。しかも携帯電話をかけながら、後部座席に乗っていた私たちはずいぶんひやひやしました。

無事にホテルに到着し、まもなくある紹介事務所に向けて出発しました。ハノイ市内はバイクが非常に多く、タクシーは周り中バイクに囲まれて走ります。バイクの人たちは排気ガスを少しでも吸わないようにとマスクをかけています。住所を確かめながら、大通りから路地に入りましたが、その道は狭くて大変。そんな狭い道でも、バイクが次から次へとタクシーの脇をすれすれに走っていきます。というわけで、初日からハノイの喧騒にフーッとため息をついてしまいました。

二日目に訪れた事務所の建物は、古いながらも大理石作りのがっしりとした建物で、シャンデリアが煌々と輝いている部屋でお話を伺いながら、ベトナムの富裕層の生活をちょっとだけ垣間見ました。午後は、ハノイ在住の友人の案内で、旧市街を見物しました。せっかくだからと高級ベトナム料理に舌鼓を打ち、コロニアルスタイルの高級ホテルのプールサイドでジュースを飲んで、つかの間の上流階級気分を味わった後、オペラ座をはじめ、フランス統治時代のヨーロッパスタイルの建物を見て、ちょっと複雑な気持ちに。その後、ホアンキエム湖という町の中心の湖の中にある中国式お寺を見物。お寺には名前などたくさん漢字が記されていましたが、現在では漢字が読めるベトナム人はほとんどいないとのこと。バイクと車が激しく往来する道路に、観光用のシクロ(乗客が自転車の前の座席に座る輪タクのようなもの)が何台も止まっていて、ヨーロッパからの観光客と思われる人たちは危険も顧みずそのシクロに乗っていました。ヨーロッパ人の勇気には感心してしまいました。

三日目の午前中にホテルから歩いて10分弱ぐらいのところにあるパン屋へ行きました。片側3車線の大通りを渡るのに一苦労。丁字路のためか、片側だけ歩行者用信号があるものの、もう片側には歩行用信号がありません。たまたまいっしょになったベトナム人の後について、絶え間なく走ってくる車とバイクの合間をすり抜けながら、思わずキヤーキヤーと声を出しつつ横断しました。ちなみに、「こんなところで交通事故に遭ったら目を当てられないよね」と言いつつも、買ったパンのおいしさに誘われて、翌日も懲りずにこの道を横断しました。

その日の午後に、学生の出身地バクニン省バクニン市に向かいました。ハノイからバクニンまでは、ずっと高速道路が延びていて、しかもバイクは通行不可なので、バイクに取り囲まれることもなく、また日曜日だったこともあって渋滞にはまることもなく、一時間弱で行くことができました。途中、ハノイ郊外の風景をじっくり見ることができましたが、

自然の緑が多く、またバナナの木などもあちこちに繁茂していました。米は3期作とのことで、亜熱帯地域の農業生産力の豊かさを感じました。自然の緑の中に立ち並ぶ家々はほとんどが3階建ての、少なくとも遠目には立派な建物で、屋根は大雨でも流れ落ちるように三角屋根でした。バクニンの学生たちの自宅もほとんど3階建ての立派な家とのことでした。

到着したバクニンの日本語センターには、7月期生として申請中の学生と保護者の方たち数人が、先生といっしょにすでに待機していました。学生たちは皆おとなしくて素朴そうで、お父さんお母さんたちも笑顔で挨拶してくれました。センターは建物そのものは古そうではありましたが、壁がピンクに塗られていて明るい雰囲気でした。一階は広い事務所になっていて、二階に教室が一つありました。7月期申請の学生たちが全員集まったところで、一人ずつ面接を行い、その後、プロジェクターで写真を写しながらT I Jの紹介を行いました。T I Jの教室の様子や先生たちの写真を見て、保護者代表の方からは「日本からわざわざ来ていただき、先生たちの御顔を直接拝見でき、また説明もしていただいて学校の様子もわかったので、息子を一人日本へ行かせる親として、安心することができました。」というお言葉をいただきました。これだけでも、今回ベトナムへ行った甲斐があったと思います。

四日目に入国したミャンマーのヤンゴンでも、日本語学校を訪問し、T I Jの説明スライドショーと学生の面接を行いました。その後、なんと勇敢にも町のレストランでミャンマー料理に挑戦。マーケットとシェダゴンパゴダに案内してもらい、思い出に残る経験をさせていただきました。

行く前に心配していた「食あたり」は、無事経験せずに約一週間の出張が終わりました。ベトナムの勢いと、ミャンマーの歴史とおおらかさを感じた出張でした。

広瀬万里子 (TIJ)



バクニンの日本語センター
7月期申請の学生たちと



バクニンで個人面接



ミャンマーの日本語学校

T I J 著「はじめよう日本語初級」の改訂版が発行されました



「毎日使えてしっかり身につく はじめよう日本語初級」が出版されて7年経ちました。この間に世界の語学学習の潮流は、文法・文型・語彙の知識があるかどうかよりも、それらの知識を使って何ができるかという「運用力」がますます問われるようになりました。本シリーズは初版から「文型の提出順にも配慮した、話題・場面シラバス」の教科書として広く使われてきましたが、この度語彙の見直しを行うとともに、より学習者の学習環境に合ったラインナップとするため、改訂版を発行することになりました。

今回の改訂版で、主に変更した箇所は次の通りです。

1. MD、ビデオ、ビデオショップ、再入国手続き、外国人登録証など、時代に合わなくなった語彙を変更しました。
2. 人口・価格などの統計資料を最新データに差し替えました。
3. 別売のCDをメインテキストの付属としました。語彙リスト（和文）、CDスクリプトもCDに含めました。
4. 『語彙リスト』が、紙の書籍と電子書籍の2種類から選べるようになりました（英語・中国語・韓国語・ベトナム語）。

より多くの学習者が、本シリーズを使って、文法というバックボーンを築きつつ、運用力を身につけていくことを願っています。

2013年5月 T I J 東京日本語研修所
著者代表 広瀬万里子

TIJ ホームページリニューアルのお知らせ

T I J のホームページがリニューアルされました。内容が豊富になり、写真もたくさん入っています。今は、日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）ですが、徐々に増やしていきたいと考えています。皆様ぜひご覧になってください。<http://www.tij.ne.jp/>です。